

日本学術会議会長談話

近藤次郎元会長に対する弔意

第13期～第15期（昭和60年7月～平成6年7月）の3期9年にわたって会長を務められた近藤次郎先生が、先日逝去されました。

昭和24年に設立された日本学術会議は、昭和50年代半ばから、その運営の在り方や会員の選出方法などをめぐって政府や社会からの厳しい批判にさらされ、昭和59年には、会員の選出方法を従来の選挙制から学協会を基礎とする推薦制に改めるなどの改革が行われました。

近藤先生が会長を務められたのは、この改革の直後の9年間に当たり、日本学術会議にとっては「試練の時代」ともいえるべき厳しい時代でした。そうした厳しい状況の中、近藤先生は、日本学術会議の活動を軌道に乗せるべく尽力され、その近藤先生のリーダーシップの下、日本学術会議は、脳死や尊厳死等の人間の生命と尊厳にかかわる問題、人間活動とそれを取り巻く地球環境に関する問題など、社会の重要課題に果敢に取り組み、将来に繋がる大きな成果を残してきたのです。

日本学術会議は、先生の日本学術会議への多大な御貢献に深く感謝いたしますとともに、科学技術イノベーションの先駆者としての御貢献に敬意をもって、ここに謹んで哀悼の意を表します。

平成27年4月3日

日本学術会議会長 大西 隆